

☆第244号

2022年9月5日

静岡県地域史研究会報

— 静岡県地域史研究会 —

会 告

会則第七条にもとづき、左記の要領にて第四一回総会を開催いたします。会員の方々は、御参会のほどよろしくお願いいたします。

二〇二二年九月五日

会長 小和田哲男

記

一 日 時 二〇二二年九月二十三日（金、秋分の日）午前十一時～
一 会 場 静岡市歴史博物館講座室

（JR静岡駅より北西へ徒歩八分）

一 議 事 （午前十一時～正午）

会務報告（会誌報告含む）

会計報告

会計監査報告

役員改選

活動方針

新年度予算審議

一 創立四十周年記念シンポジウム（午後一時～午後五時）

「今川氏研究の現在」

基調報告 大石泰史氏・鈴木将典氏・糟谷幸裕氏

コメンテーター 黒田基樹氏

コーディネーター 大石泰史氏

※役員は午前十時半に御集合ください。

なお、コロナウィルス感染の状況に応じて、総会及び記念シンポジウムを中止する場合がございますので、ご了承ください。中止する場合は九月一七日までにメール連絡させていただきます。

【記念シンポジウムの詳細】

紙数に余裕があるので、シンポジウムについて決まっていることを列記します。

1時刻は以前のシンポジウム同様、一時からとし、できるだけ討論の時間を確保しました。

2基調報告は三本、論題と報告者は左記の通りです。

① 今川氏研究の成果と課題

大石泰史氏

② 今川氏検地の再検討

鈴木将典氏

③ 戦国大名今川氏の天文の三河侵攻・再考

糟谷幸裕氏

一人四〇分の報告の後、休憩を入れ、黒田基樹氏からそれぞれの報告についてコメントをいただきます。その後五時まで質疑・討論を行う予定。大石泰史氏にはコーディネー

ターを兼ねていただきます。

基調報告者・コメンテーター共に、今川氏を最前線で研究されているので、今までにない論点での討論や問題点の解決が期待されます。

3このシンポジウムは当会四十周年記念として企画されたものであり、昨年予定されていたものが残念ながらコロナ感染拡大に伴い、本年に延期になったものです。

なお、総会当日は、年会費四〇〇〇円をお忘れなくお願いします。

また、研究会誌『静岡地域史研究』十二号と別冊歴史随想編の二冊をお分けします。

会員は無料ですが、会員外の方にもそれぞれ販価千円で販売しますのでご承知おきください。別冊歴史随想編も四十周年記念事業です。

例会報告要旨

七月例会（一五名参加）

七月十六日（土）

あざれあ第一会議室

今川氏検地の再検討

鈴木 将典

戦国大名今川氏の検地に関する研究は、規模や増分の内実（名主加地子得分か隠田か）などが論点とされ、一九七〇年代から八〇年代にかけて最盛期を迎えたが、現在は停滞している状況にある。そこで本報告では、近年の議論を基に、今川氏の検地について再検討を試みた。

まず、今川領国で実施された検地を、下記のような三つの段階に分類した。

（1）地頭から指出を徴収して知行高を把握する方法。これは義元が家督を継承した後、天文十年（一五四一）ごろ

を画期とする。

（2）史料上に「尋」「改」として記載される、訴訟を契機とした今川氏の現地調査。

これらは現地からの要請によって実施され、増分だけでなく災害等による減免分も把握されており、今川氏が制定した「今川仮名目録」第一条および「訴訟条目」第十二条にも、その旨が明記されている。画期としては天文二十年ごろを想定した。

（3）狭義の「検地」である土地の実測。これは他の戦国大名と同じように、田一反あたり五〇〇文を基準として貫高が設定されていたと考えられるが、今川氏の場合は、米方（石高・俵高）と代方（貫高）を併用した点に最大の特徴がある。

次に増分をめぐっては、「訴訟条目」第十二条にも記載されているように、今川氏は原則として当主に披露した上で知行役を増加していたことが確認できる。

今川氏が検地を実施するのは、今川氏が把握する知行高と実際の年貢高が大幅に乖離していた場合に限定されていた。このような状況が発生した時に、今川氏は現地調査を実施して、地頭の実際の収入を把握していたと考えられる。

冒頭で述べたように、近年の戦国大名検地に関する研究は、小田原北条氏や甲斐武田氏を中心に議論されており、今川氏の検地に関する議論は停滞している。九月のシンポジウムでは、このような状況

を踏まえた上で新たな視点を提示し、議論を進めたい。

戦国大名今川氏の天文の三河 侵攻・再考

糟谷 幸裕

近年の戦国大名今川氏研究において、従来説の書き替えがもつとも顕著に進展したのは、天文十五年（一五四六）以降本格化する今川氏の三河侵攻過程、なかんずく徳川家康の父・松平広忠の位置づけであろう。そしてこの書き替えは、いわゆる「松平・徳川中心史観」が史料解釈に与えるバイアスが、依然として根強く残存することを浮き彫りにしたといえる。このことは、「松平・徳川中心史観」の源流ともいえる「三河物語」「松平記」などの近世初期成立史料を読み直し、矛盾点や同時

代史料との齟齬を明らかにするという基礎的な作業を、あらためておこなう必要を示しているよう。

本報告の大筋は、前年七月の例会で報告したものから変更はない。まず、近世初期成立史料に基づく広忠像と、同時代史料からうかがえるそれを対比的に示すことで、その落差の大きさを確認した。そのうえで、近世以降の史料にしかみられない挿話——竹千代強奪事件や、竹千代の尾張人質時代——を自明の前提とすることは、もはやできないことを指摘した。前者についてはすでに虚構説が出され一定の支持を得られているようである。ならば、その結果生じたとされる後者の実在も、当然、疑ってかかるべきであ

ろう。

今川氏の三河支配、とくに西三河においては、家康の位置づけはやはり大きかったと思われる。「松平・徳川中心史観」を排してその実態に迫り、ほかの三河国衆との対比を可能とすることは、今川氏、ひいては戦国大名権力と国衆との関係を議論するうえで、貴重な論点を提供するであろう。

報告当日および後日には、貴重なご意見とご批判を多くいただいた。それらに十全に答えられるか心もとないが、活発な議論の呼び水となるような報告を心掛けたい。

【例会案内】

☆十月例会

十月二十一日（土）午後三時～

静岡県教育会館地階C会議室

報告名及び報告者名

遠江国原田・村櫛荘の

半済と半済給人

佐藤公彦氏（専修大学大学院）

※例年三月に行っていた卒業論文発表会が今年度もできませんでした。そこで、地方史研究協議会主催の卒業論文発表

会に参加された佐藤氏に依頼したところ、快く承諾していただきましたので、時期はずれましたが開催します。

※参考文献『地方史研究』四一

八号、森田コメント

（詳細は葉書でお知らせします）

☆十一月例会

十一月十二日（土）

午後一時三〇分～四時三〇分

沼津市立図書館講座室

小田原近世史研究会編『近世地域史研究の模索―「つながり」の視点から―』の書評会

地方史研究協議会主催／小田原近世史研究会・静岡県地域史研究会共催で行います。

書評者

① 松本和明氏（静岡大学）

② 杉本寛郎氏（富士市博物館）

「つながり」の視点からの

事例報告

③ 小田原近世史研究会のライブ

対面及びズームでの開催です。

次号会報で詳しくお知らせします。

※東部例会ではありませんが、会場確保の都合上、沼津で行い、しかも第二日曜日です。お間違えにならないようにお願いします。会場はJR沼津駅から南東へ徒歩七分です。

【事務局からのお願い】

（一）報告者の募集について

十二月以降報告者が決まっています。報告を希望される方は、小和田会長または事務局森田まで連絡下さい。

（二）合わせて歴史随想も募集

しています。

「お知らせ」

総会会場は、会報二四三号でご紹介した、七月にプレオープンしたばかりの、静岡市歴史博物館です。教育会館の西側にあり、元青葉小学校があった場所です。戦国期の遺構が残されており、全面オープンではありませんが、ぜひこの機会に見学してください。

静岡古城研究会では、この度『静岡県の城跡 中世城郭縄張図集成（西部・遠江国版）』を刊行されました。会のご厚意により、当日販売していただくことになりました。頒価七〇〇〇円です。ご興味のある方は購入ください。

静岡県地域史研究会報

第244号

2022年9月5日発行

静岡県地域史研究会

会長 小和田哲男

事務局長 森田 香司(053)449-5711

会計担当 北村 啓(090)4230-6530

〔会費納入先〕

424-0949 静岡市清水区本町9-8

北村啓気付

TEL090-4230-6530

郵便振替口座 00880-3-63062

年会費 4,000円